



シアトル日本語補習学校 PTA

令和 5 年 10 月

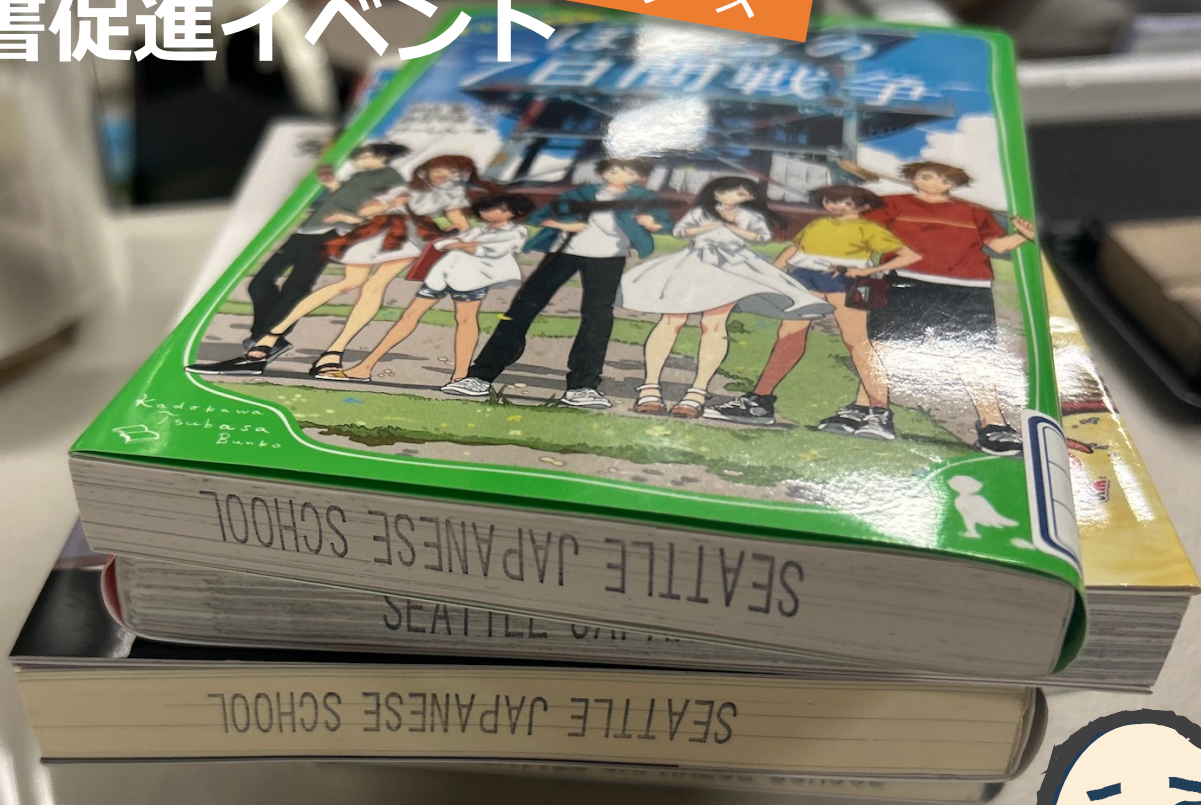


PTA だより



読書促進イベント

潜入ルポ
シリーズ



みなさん、こんにちは。ルポ隊員のアランTです。

PTA 図書委員会の主催する読書促進イベントが10月7日に図書室で開催されました。このイベントはより多くの児童・生徒に色々な本や図書室に興味を持ってもらうことを目的に開催されています。広報部のメンバーも身分を隠し、お手伝い要員と称して潜入取材を敢行してまいりましたのでここに報告します。

また、図書委員のみなさんが普段どのような活動を行っておるのかについても、取材を行いました。

参加賞の受け渡しは学年ごとに並で行います。



イベントは複数回に分けて開催されました。最初は午前10時25分からの15分の休憩中で、小学生の生徒が対象です。お昼休みにはそれに加えて中高生も参加対象となり、13時20分からは幼稚園児も参加しました。さらに、放課後に参加する生徒も考慮し、担当の委員さんたちにとっては長い一日となりました。

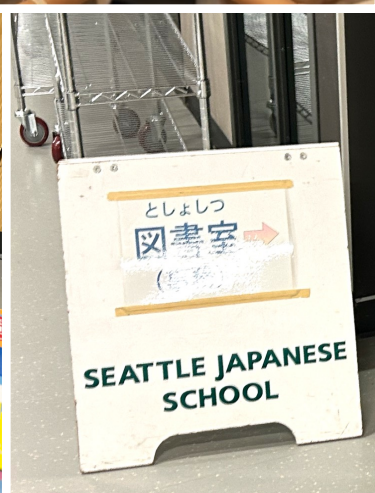
イベント当日、本を借りると学年に応じた参加賞がもらえるため、多くの生徒や児童が訪れました。特に最初の15分休憩中には、小学生の全学年が短い時間内に訪れることから、混雑が予想されました。

図書の貸出を担当する室内スタッフも、注意深くチェックを行っています。



床にテープを貼って、並ぶ方向を案内します。ちゃんと並んでくれるかな。。うん、きっと並んでくれるよ！

参加賞の景品は、スタッフが日本で購入し、持ち帰っていただきました。





入念な準備のもと、受け入れ態勢は完璧です。さて、そろそろ10時25分が近づいています。

はて、気のせいかな、廊下の向こうから歓声が。。

ん？



え？



わわわ..

10:27:05

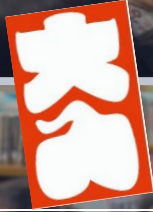


室内もあっという間に、 カオスな状態に



並んでくださーい！
(いや無理)

副委員長の声が室内に遠くこだまします



満員御礼



とはいえ、人気のある企画には多少の混乱はつきもの。イベントは大成功でした。多くの生徒が図書室を訪れ、自分の読みたい本を見つけ、参加賞を手にして教室に戻りました。



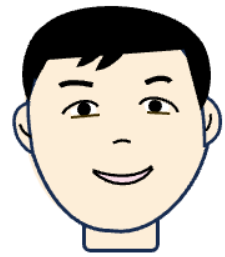
その後も多くの生徒・児童のみなさんが訪れてくれました。



このイベントを企画、実行して下さった図書委員会のみなさま、司書の先生方にあらためて感謝です。ありがとうございました。



カトリーヌとアルベールの 今日の潜入コラム



新規在庫図書のカバーがけ

朝から図書委員の方々が和やかな雰囲気ですと作業をしていました。

年に3.4回厳選した新刊本を日本から取り寄せてくれているとのこと、その本にラベルを貼り、ハンコを押し、ハードもしくはソフトカバーをつけるという一連の作業を手際よくやられていました。

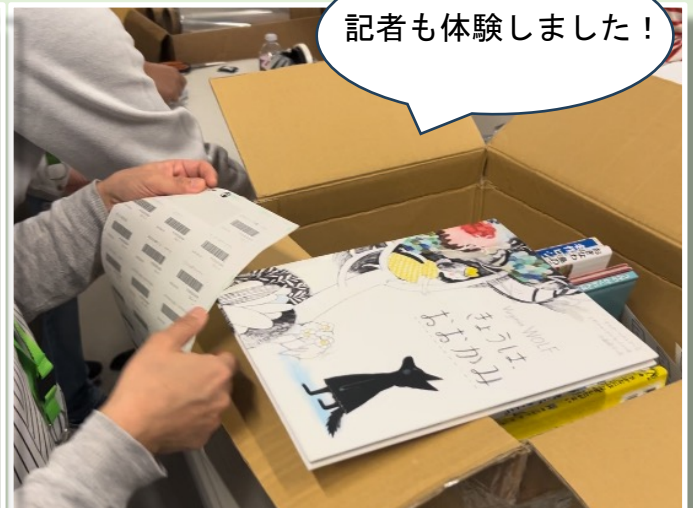


私達も実際作業に参加させていただきましたが、図書委員の皆さんがこんなに大事に本を扱ってくれていたとは感謝感謝です😭

テキパキと通常の3倍のスピード...?



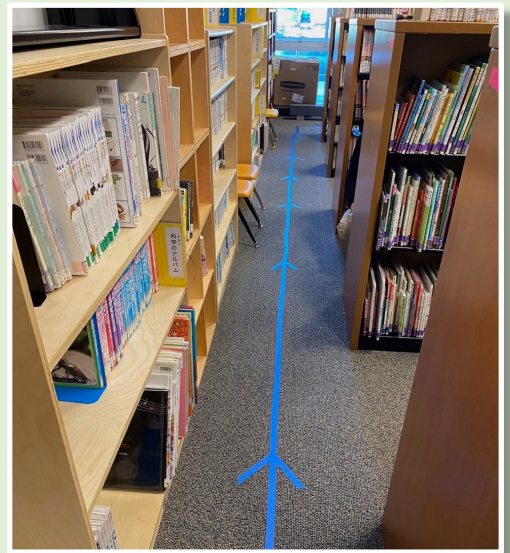
記者も体験しました!



図書室

お恥ずかしながら、初めて図書室の中に入りましたが、中は本がぎっしりと綺麗に並べられていました。更に新刊も入り、子供達は幸せですね～。

図書委員の皆様、司書の先生方に常に支えられ、この素晴らしい図書室が運営されているのだと、しみじみ実感しました。



読書促進会

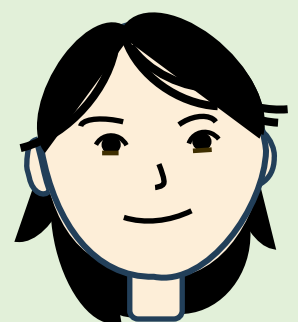
そして、普段の図書委員のお仕事に加えて、今回のイベント！読書促進会が開催されました。

図書委員さんの入念な準備の元、子供達は(普段走ってはいけないであろう廊下を走って登場、キラキラ輝く瞳の子供達の手には参加賞の引き換え券がしっかりと握られていました😄)。ほとんどの児童、生徒が足を運んでくれたのではないのでしょうか。普段、あまり来ない子達にも今回のイベントは大いに刺激になり、本の魅力を再認識できたのではと期待します！



イベントの際中から、今回のイベントの改善点、引き継ぎ項目などを次々とコミュニケーションを取っている委員の皆さんの思いに心を打たれました。こうして、より良い読書促進会が受け継がれていくのでしょうか。

図書委員の皆様、阿部先生、紅谷先生、1日ありがとうございました。そして、今後も引き続き図書運営をよろしくお願いいたします。



山崎委員長インタビュー



- 図書委員とはざっくりどんなお仕事なのかおしえていただけますか。

図書委員の主な業務は、図書の貸出しと返却の作業を行うことです。委員長と副委員長を除く全員が当番に立ち、1ヶ月に1、2回の割合で図書の貸し出しと返却の作業を担当します。委員は当番のほか、それぞれに担当する係が割り当てられています。

- どんな係があるのですか？

委員長、副委員長をはじめ、当番のスケジュール管理を行う「スケジュール係」、新たに入庫した本の登録を行う「登録係」、登録された図書にカバーを装着する「カバー係」、そしてイベントの企画・実行を担う「読書促進イベント係」があります。

- 係の役割を分担したうえで、当番をこなすのですね。

はい、自分の担当の係の仕事のうえに、貸出返却の作業を行う図書当番が回ってきます。図書委員は初めのPTA委員会で前述の係に分かれます。

- 当番になった場合、その方は、その日は一日学校にいますか？

いいえ、4交代制を採用しているため、当番になっても学校にいるのは2時間程度です。

- 活動を通じ、意識されていることとか、気をつけていることはありますか？

常設の業務であるため、担当の欠員が許されません。当番の方が緊急の場合、風邪や病気の際には、委員長または副委員長がピンチヒッターとして対応します。委員長と副委員長は当番のローテーションに加わっていないのはそのためです。

- 委員長・副委員長は代打のため当番にははいていないのですね。では正副委員長は毎週学校にいらっしゃるのでしょうか？それとも必要に応じて？

はい 委員長と副委員長は、図書当番は免除対象とされています。急なピンチヒッターや増員の時に当番はあつたりするのですが、それもみなさん空いている方が代ったりしてくださるので決していつも待機しなければならない訳ではありません。

山崎委員長インタビュー (cont.)

- 図書委員の仕事をしていてよかったと思うことは？

イベントで生徒が嬉しそうに景品を持って帰るときは素直にうれしいですね。本来の目的は本を借りてもらうことなのですが。

- では逆に苦労されていることはありますか？

図書の引き継ぎについて詳しく知識がないまま進めることがあります。幸い、司書の先生がサポートしてくれています。

- どうして委員長になったんですか？

委員長になった理由は… じゃんけんで負けたからです。

- じゃあ立候補ではないんですね。

違います(笑)

- 最後に来年の図書委員の方々に、メッセージなどあれば

大きなイベントはないかもしれませんが、有意義な活動だと思います。新規に本が入庫しても、登録し、カバーをかけないと、生徒が本を借りることはできません。図書委員の活動は、補習校の生活を支える重要な役割を果たしていると思います。



山崎委員長と細江副委員長

さて、今回も潜入ルポは大成功だったのかはわかりませんが、記者たちも取材をすっかり忘れて子どもたちの熱気に圧倒されておりまして。

図書室を目指し、一目散に階段を駆け下りてくる子供たちの笑顔を見て、記者は考えました。参加賞を受けること以上に、彼らの内に秘めた読書への欲求や、新たな知識を得たいという欲求があるのではないかと、それがこの熱気の源泉なのではないかと。(そうなんじゃないかな.. いや、そうに違いない!) 補習校の子供たちは幸運です。情報はスマホだけでなく、本からも得られることを知っており、それを後押ししてくれる熱意をもった大人たちがいるのですから。

あ、もうこんな時間ですね。そろそろ次の取材に行かないと！ではみなさん、次号でお会いしましょう。

- アラン T





取材 : *Katrine Mikami, Albert Mikami*
構成 イラスト : *Alan Takatsu*

編集: 広報部

編集後記

図書委員の仕事は、PTAの職務の中でも、個人の業務時間が長い仕事の一つであろうと取材を通して感じました。自らの係の役割をこなすだけでなく、毎月1、2回の貸出返却の当番が必ず回ってきます。しかも、当番の時間は登下校時に限らず、日中にも設定されることがあります。記者のように遠方から通学している場合、一日中、学校に滞在することもあるのではないかと想像しました。

それに加え、実際には係や当番で指定された業務以外にも多くの仕事が存在するようです。記者が観察したところ、山崎委員長は空いた時間を活用して、精力的に「その他の仕事」に取り組んでいました。たとえば、分厚いファイルを手に図書をにらみ、しきりにメモを取っておられました。希望を出した保護者に優先的に新規在庫した図書を貸し出せるように連絡を行うための準備なのだそうです。きめ細かいサービスに頭が下がるばかりです。

こうした多忙な状況でも、委員の皆さんは笑顔を絶やすことはありませんでした。和気あいあいと楽しげに、またテキパキと業務をこなしていました。委員長の言葉通り、補習校を支える使命感、共に働く充実感、そして仕事を通じて築かれた絆がそこに存在しているのでしょう。日々の業務と引き換えに得られるかけがえのないものがそこにはある。そんなことを考えました。

副委員長の細江さんは二年目のリポーター委員だそうです。経験豊富で、チームを影で支える大番頭です。存在そのものが他の委員のみなさんの安心感につながっているという印象を受けました。おふたりの強いリーダーシップに牽引されているからこそ、チームに笑顔が絶えないのでしょう。あらためて、委員のみなさま、図書室の先生方に感謝です。

広報部 編集室

2023年 秋